

第3回 生活困窮者自立支援全国研究交流大会

広範なプレーヤーと共に

— 制度の見直し充実に向けて！



大会に先立ち、11月12日10時より、一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワークの第3期社員総会が開かれました。



開会では、主催者である一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク代表理事の岡崎誠也さん、開催地を代表して川崎市市長の福田紀彦さん、さらに厚生労働省社会・援護局局長の定塚由美子さん、慶応義塾大学塾長の清家篤さんよりご挨拶を頂戴しました。



歓迎セレモニー

千葉ダルクによる、琉球太鼓の演奏で幕を開けた第3回生活困窮者自立支援全国研究交流大会。リズムカルな沖縄民謡に合わせた、ときに力強く、ときに軽快なリズムで参加者のみなさんをお出迎えました。

宮本 太郎さん (中央大学法学部 教授)

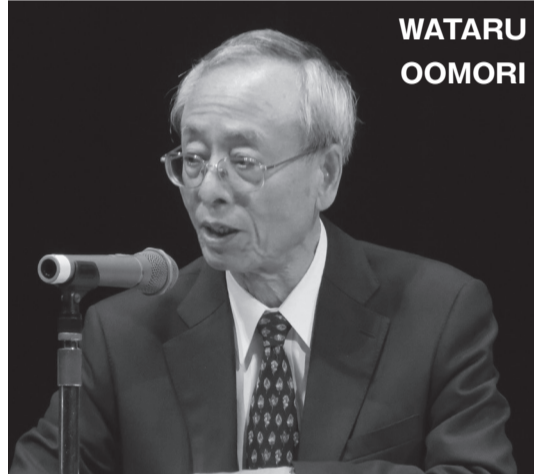


生活困窮者自立支援制度において、自立相談支援事業は、既存の縦割りの制度に横申をさし、任意事業はその補完としてはさまの支援をします。制度があるから解決するのではなく、地域に住む一人ひとりが元気になるために課題を解決する、そのために横につなぐ必要があります。

行政のさまざまな窓口で浮上した経済的な困難や生活相談を自立相談窓口につながるしかけづくりを制度改革に期待します。また、障害、高齢、子どもといった概念を超えた上位概念に生活困窮者があります。生活困窮者支援の包括的な概念、いろいろな困難を複合して全体としてみるものだという概念をぜひ明記してほしいと思います。

基調 鼎談 生活困窮者支援が 切り拓くもの 制度見直しに触れて

WATARU OOMORI



困難を抱える人を地域で受け止め、けっしてあきらめない。そういう社会がすべての日本の地域にあれば、日本はとてもいい社会になります。そういう可能性をはらんでいます。

大森 彌さん (東京大学 名誉教授)

声なき困りごとに気づき、地域で受け止められる土壌、地域を考えるときに生活困窮者自立支援制度を抜きにしては考えられない。多くの人の希望を受けて歩みだした制度をさらに成長させていきたい。

SOSが出せない人の変化に気づけるのは地域の人。できるだけ地域に近いところで見えている課題がいかにつながつてくるのが大切です。地域の持っている発見する力、支える力と一緒に生活困窮者支援制度でしっかり支えることで厚みのある形になると考えています。

KEN HONGO



本後 健さん

(厚生労働省社会・援護局 生活困窮者自立支援室 室長)

国会議員編 「政治の力で生活困窮者支援を支える決意表明」



とかしき なおみさん
(自由民主党 衆議院議員)

- ① 経済的困窮は心の貧困から始まる。心に寄り添うことが大切です。
- ② 悲鳴(SOS)を受け取るためには、複数のアプローチが必要!
- ③ 「ありがとう」という声をたくさんかけ合う社会に。



細野 豪志さん
(民進党 衆議院議員・
民進党代表代行)

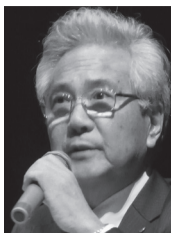
多様なあり方を認めている法律ですが、全国的に差があるところは埋めなければならない。さらに日本でのセーフティネットが多様に用意され、多くの方に担い手になっていただくことを、政治が支えていきます。この制度は党派を超えて、連携して改正していくことを誓います。



山本 かなえさん
(公明党 参議院議員)

地域共生社会の核となる制度で、プロセスが大切。制度の見直し検討会も、伴走型で一緒に進めてまいります。また、住まいがないと職も福祉にもつながらず。居住という切り口も大切にして、学んだことを国政に活かしていきます。

自治体編 「困窮者支援で今こそ自治体政策転換」



弘前市(青森県)市長
葛西 憲之さん

人口減少から担い手不足となり、基幹産業である第一次産業の就業者も減少しています。そこで、大阪の若年無業者を受け入れている大阪府泉佐野市と連携し、弘前市で移住・定住を見据えた農業の実地研修を行っています。この取り組みを弘前市における就労支援にも展開しています。従来の自立相談支援機関窓口の限界から、出口を開拓・強化するための機能を備えた「ひろさき生活・仕事応援センター」を2016年8月に開設しました。



北栄町(鳥取県)町長
松本 昭夫さん

副町長中心のトップダウン方式で、全庁的な横断体制を構築しています。庁内各課の困窮対策施策を共有し、庁内連絡会で困窮者対策の実施体制を敷いています。また、困窮施策にとどまらず、支援を通じた地域づくりに力を注いでいます。農業振興施策、障がい者施策、困窮者施策を柱に、地域の潜在的なニーズを困窮者支援とマッチングさせ、みなで支える地域づくりに向けて取り組みを進めています。困窮者対策で地域を変え、地域の潜在的ニーズと困窮者支援とのマッチングで付加価値をつけ、困窮者支援を見逃さない地域の支え愛ネットワークと行政との協働で地域ネットワークを構築していきます。



名張市(三重県)市長
亀井 利克さん

名張市総合計画「福祉の理想郷プラン」実現に向け、地域力の強化に努めています。15の地区市民センターを単位とする地域づくり組織がまちづくり活動を実施し、自己実現のまちづくりが可能なゆめづくり地域交付金を交付しています。さまざまな地域づくり組織が取り組みを活発化しています。困窮者支援においては、親の学歴、所属によって決まる健康と教育の負の連鎖を断ち切るために、名張市社協に委託をして支援を行っています(学習支援のみ市直営)。福祉の理想郷プランの集大成として、教福連携の名張市地域福祉教育総合支援システムを構築し、明日(13日)、「多機関協働による地域まるごと福祉・教育構想について」のシンポジウムなどのキックオフ大会を開催します。

特別講演 「希望学から考える困窮者支援」

希望は「しっかりとした気持ち」「自分にとって大切ななにかを定めること」「それを実現しようとすること」「動いて、もがくこと」の4つの柱でできている。ゆるやかな絆を広げることは希望の種です。生活困窮者自立支援法は、一人ひとりが自分の

希望をつくり、ゆるやかな絆を広げていくための法律になると思います。それから、絶望の対極にある、「ユーモア」を忘れずに。

玄田 有史さん
(東京大学社会科学研究所 教授)



徹底討論



孤立させず、地域で つながりささえるには

全国コミュニティライフサポートセンターでは、仙台市と石巻市で24時間365日、何があっても断らないという姿勢で緊急受け入れのできる事業所を運営しています。小学校区のエリアで支えようと事業を始め、制度にのっとった事業ではありませんが、2か月に1回、自治会長をはじめとした地域の顔役の人たちに集まってもらい、運営推進委員会を開催しています。町内会長には地域のいろいろな課題が聞こえてきていて、この委員会に来れば解決の方法がわかると言います。排除しない、帰ってこられる空間を地域につくることは、とても大切だと感じています。



池田 昌弘さん
(全国コミュニティライフサポートセンター 理事長)



山崎 博之さん
(長野県社会福祉協議会 相談事業部 自立支援グループ 主事)

平成27年より、横断的な部分を担うまいさぼ事業を開始しました。福祉と就労をつなげたことで、いままで福祉相談ではつながらなかった人とつながることができるようになりました。主訴をしっかりと受け止めると、仕事だけではなく、世帯で複合的な課題を抱えている人が多くいます。就労準備支援事業や、社会福祉法人との連携などで就労につながると、家族や本人自身の見方が変わり、自尊心が高まっています。福祉と就労が結びついたことが制度の大きな特徴だと感じます。

私は、人を大切にするということを徹底的にやろうという思いで30年間ホームレス支援をしてきました。結論から言えば、何が起ころうと「そんなこともあるよね」と言えるようになりました。つまり、幅があるということです。「こうでなきゃダメ」と言わない。今の社会は「生きる意味のある命」と「ない命」などと対立的になっています。「自立」と「依存」、「共生」と「孤独」なども対立概念として受け取られています。しかし、それらは実は一対の概念です。時代が対立的になり分断され、相互に憎悪を抱く状況が増えているように思いますが、心配です。社会が持っているこの殺伐とした雰囲気を取り除いていくには、制度や地域、人と人を横断しつ、つながることが大事。生活困窮者自立支援制度の考え方はこの点で非常に大切です。どんな人も「そんなこともある」と言いながら、人を大切にする。そんな思いでこの制度に向かい合いたいと思います。



奥田 知志さん
(認定 NPO 法人抱擁 理事長)



岡田 百合子さん
(NPO 法人ワーカーズ・コレクティブ 協会 専務理事)

地域の女性たちが、自分たちの行き場、社会参加、働く場所、地域に必要な場がほしいという思いからワーカーズ・コレクティブはスタートしました。地域でまじわる働く場をつくろうと働きかけると、ひきこもり、障害のある人、高齢の人たちの働くニーズがあることに気づかされました。関わっていくと、就労の近くにいる人もいれば、遠い人も見えてきました。その人たちに向けたサポートも必要です。



湯浅 誠さん
(法政大学 教授)

パーソナルサポート事業では、制度に乗らない、乗れない人の制度をつくりたく取り組んできました。制度ができたあとが難しい。魂の継承をしていくことが大事だと感じています。地域の基本は、まったくの他人です。そこに住んでいるということで顔を合わせざるをえない、話さざるをえない人もいます。地域づくりとは、地域がかつての力を持たなくなっているからこそ、それをあえてつくらなければならないのは、初めての事態に直面しているのだと思います。法律を使いこなしながら地域づくり。可能だし、楽しいんじゃないかと思っています。



約400人が参加して、 大いに盛り上がった大懇親会！

1日目の夜には、川崎日航ホテルにて、申込参加者と講師による大懇親会が開かれました。元厚生労働省社会・援護局長の石井淳子さんによる乾杯で幕が開き、お楽しみ抽選会などの企画を挟みながら、楽しい歓談のひとときを過ごしました。



編集後記

第3回生活困窮者自立支援全国研究交流大会は、当日参加者38人を加え、1,071人の参加者のみなさまをお迎えすることができました。大会速報第3号は、2日目の内容を盛り込んで、後日、生活困窮者自立支援全国ネットワークホームページにアップいたします。どうぞ楽しみに！